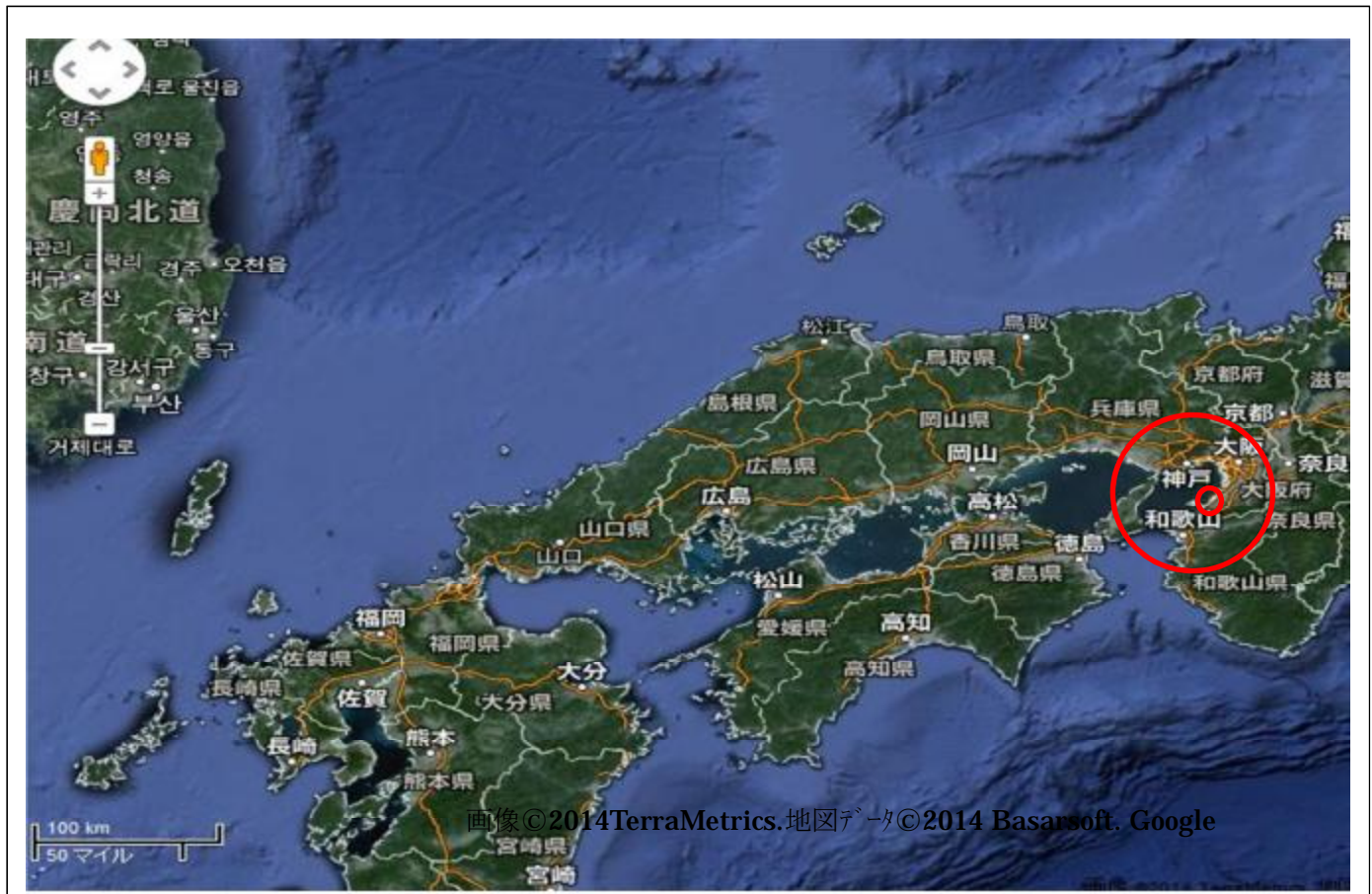


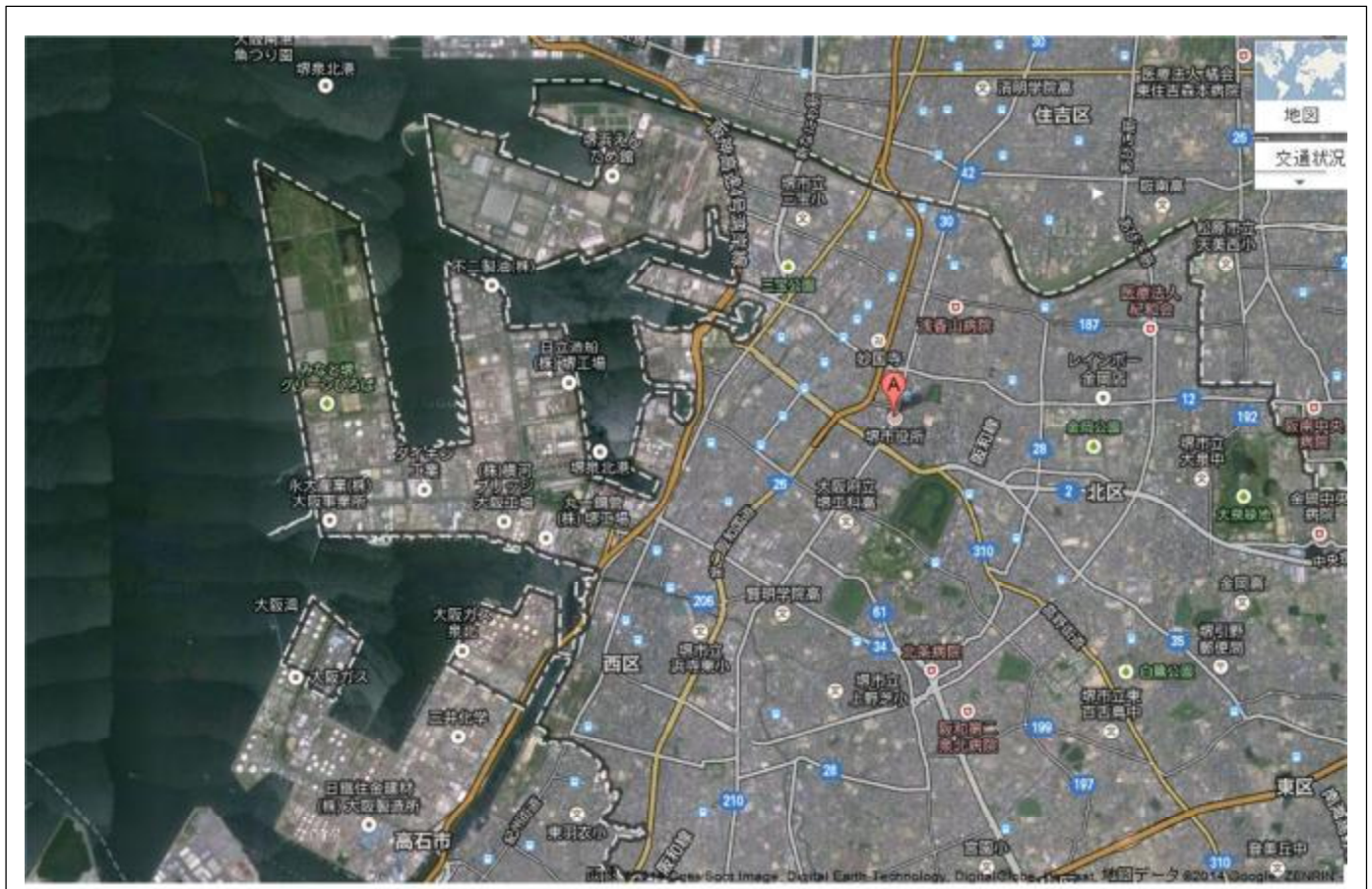
# 堺泉北臨海コンビナートの概要

平成 **26** 年 **12** 月

大 阪 府







## 大阪府の概要(2010)

大阪府の面積は約 1901k m<sup>2</sup>で日本の国土面積の 0.5%に過ぎませんが、人口は約 887 万人で日本全体の約 7%、これはオーストリア 1 国を凌ぐものです。

また GDP は約 4630 億ドルで、これは日本全体の約 7.7%、都道府県としては第 2 位(1 位は東京)であり、アルゼンチン 1 国に匹敵するものとなっています。

大阪府の土地利用の状況は、約 1901k m<sup>2</sup>の内、森林が約 30%、住宅地が約 16.5%、商業地が約 11.5%、工場用地が約 3.1%、農地が約 8%となっています。

## 堺泉北臨海コンビナートの概要

堺泉北臨海コンビナートは第二次世界大戦前の 1936 年の室戸台風の被害調査を受け、その対策を計画する過程で立案されましたが戦争の激化により一旦は中止されました。戦後大阪府が港湾管理者となった後、1958 年から埋立が再開され、1972 年に竣工したものです。

堺泉北臨海コンビナートは沿岸約 11km 沖合い約 4 km の範囲に築造された約 17k m<sup>2</sup>の埋立地であり、面積の 87%が工場用地として分譲され、7%が道路港湾施設に、4%が公共緑地公園として整備されました。

## ○数字で見る工業地帯のあらまし（「堺泉北臨海工業地帯概要 1997」

{旧(財)大阪府臨海りんくうセンター刊}より)

- ・ 計画された面積 : 2,000ha(約 600 万坪・池田市にほぼ同じ)
- ・ 完成した面積 : 1,704.5173ha(約 515 万坪・大阪府の 1%弱)
- ・ 工事の範囲 : 大和川から南へ約 11km 海岸線、沖合約 4km、埋立最前面の水深-8m
- ・ 工業地帯の道路 : 幹線 ; W=36m, L=17km、支線 ; W=7.5~22m, L=約 9km
- ・ 工業用水の給水量 : 日量 46 万ト
- ・ 造成地の利用率 : 工場地 87%, 道路地 5%, 港湾施設地 2%, 緑地・公園 4%, 他公共用地 2%
- ・ 港湾取扱い貨物量(H7) : 公共埠頭 22,781 千ト, 企業専用岸壁 60,766 千ト
- ・ 事業費 : 1,050 億円

## ○アクセス

- ・ 関西国際空港から南海本線とタクシーで約 50 分
- ・ 新大阪駅から地下鉄と南海本線とタクシーで約 50 分
- ・ 大阪市内から地下鉄と南海本線とタクシーで約 40 分

## ○コンビナートとインフラ（「堺泉北臨海工業地帯の建設」S45 3/1 大阪府刊ほかより）

### ・ 工業用水

臨海コンビナートの築造のため、必要となる計画日量 53 万トの工業用水を確保するため工業用水道を淀川から 4 つのルートで 3 段階に分けて実施され、延べ延長約 147km の水道管を敷設し整備されました。

### ・ 専用岸壁

臨海工業地帯の岸壁は大阪湾に直接面する岸壁を除き、工場用地と合せて専用岸壁として分譲譲渡され、港湾を生産施設の一部として利用可能なことから、専用岸壁群からなる工業港が形成されています。

### ・ 道路交通網

コンビナートが機能するために必要な物流のため、空港、鉄道駅、そして国土軸を走る高速道路と結節する道路交通網の整備が進められ、自動車専用道としては阪神高速堺線・湾岸線と松原泉大津線さらに一般道として大阪中央環状線と国道 26 号が整備されておりましたが、現在さらに大阪市内の渋滞を避けて国土軸と結ぶため、平成 28 年度末の開通を目指して阪神高速大和川線の整備が進められています。

### ・ 鉄道網

工場勤務者の通勤の足となる鉄軌道網として周辺には南海本線、JR 阪和線があり、最寄り駅から各企業が用意したバス等により各企業へ通勤されています。

## ○産業集積

現在、堺泉北臨海コンビナートの事業所数は約 250 社、これは府下全体の 1%にすぎませんが、製造品出荷額では約 20%を占める一大産業集積地域です

業種は石油精製、石油化学、製鋼業、非鉄金属製造、機械製造、橋梁製造、造船、セメント、金属加工、塗料、製薬、建築資材工場、ガラス、アルミ、冷凍、木工工場、インク製造、火力発電所、太陽光発電所、都市ガス製造工場、太陽電池、液晶ディスプレイ等とそれに関連する物流会社倉庫等極めて多岐に渡る業種が集積しています。

## ○石油化学コンビナートの特徴

石油精製工場と近接する化学工場をパイプラインで結び、別々の会社があたかも1つの製造ラインを共有するかのようにより石油化学中間製品が作られるところが特徴です。また、パイプラインは原材料だけでなく、製造工程で必要な蒸気や水素ガスなどを企業間で融通し合うために使われることもあります。

【具体的な事例としては専用岸壁に接岸したタンカーからパイプラインで陸上タンクに石油を貯蔵し、石油精製工場では石油から精製したナフサをパイプラインで直接石油化学工場へ送り、分留することによりエチレン・プロピレン・ブタジエン・ベンゼン・トルエン・キシレン等の石油化学基礎製品が製造されます。そしてそれらの基礎製品をコンビナート内の中間製品工場へパイプライン等で運び化学反応させさらに別の物質へ作り変えます。(ex. エチレンを重合させポリエチレンへ作り変えるなど)】

出展： 堺・泉北臨海工業地帯概要 1997(財)大阪府臨海・りんくうセンター  
国土地理院HP(平成24)

**H25.10.1** 現在大阪府の推計人口 (H26.3) 大阪府総務部統計課  
総務省統計局HP 人口推計の結果の概要 **H25.10.1**

**2014** 版 なにわの経済データ 大阪府産業リサーチセンター**H26.10.**